



スチームショベルの働き

東京府の直轄工事にして綾瀬川の改修工事に使用せる米國オスゴット會社製のスチームショベルであります。

寫眞としては頗る貧弱なものでありますが、機械としての其働き振りを見るべく、記者は寫眞寄稿者と共に二月四日其實地を視察しました、春らしく暖い荒川の放水路の向ふで、小菅刑務所の邊りは實に静かな田園であります。

川幅十間に足りない綾瀬川の堤上で黒煙を吐いて、けたたましく働いてをるショベルを見ますと、如何にも不自然な、不調和な状況ではありますが、工事として見る時に如何にも其の機械の偉力に感嘆されます。

東京府の牛尾技師が現場で話された要領は大體次の様でした。

堤防上幅平均三間、厚さ四尺をショベルのデツパーで削取るに一日平均十八間位の進行です。

五尺位削取つては前方に移動する、此の移動のために就業時間の三分一しか働けないこの事です。此はショベルの車輪を無限軌道式にすれば改良出来るこの事です。機械購入の際には斯る點をも研究して置く必要があります。

操縦は運轉工一人

綱引一人

火夫一人

デツパーの容積は四分三立方碼

燃料石炭は一日約二千斤

ボイラー用の水に就て面白い經驗談を聞きました、昨年末よりの一般の旱魃のため綾瀬川も川水減じて海水が浸入し來り、ボイラー用にしてをつた川水に多くの鹽分を混じた爲め、ボイラー其他インデンにも非常な故障を來したさふです。現在では川水を表面で濾過して使つてをります。